式　辞

このたび、修士課程の大学院生として農学府百九十名、工学府三六一名、生物システム応用科学府七一名、技術経営研究科四十名、合わせて六六二名、博士後期課程の大学院生として工学府四六名、生物システム応用科学府二二名、合計六八名をお迎えすることができました。なお、茨城大学と宇都宮大学と連合し、本学が幹事校となっている連合農学研究科の入学式は来週行なう予定となっておりますが、本年は五六名を受け入れることになっております。したがって、博士後期課程の合計は一二四名であり、本学大学院全体を合わせた新入生の総計は七八六名となります。東京農工大学の一員となられた七八六名の皆さん、皆さんの東京農工大学大学院への入学を心より祝福いたします。ご列席の畑中孝晴同窓会長をはじめ、理事、監事、学府長、研究科長、評議員、本学教職員とともに、心からお祝い申し上げます。

新入生のこれまでの学習を側面から支援し、励ましてこられたご家族の皆様も大きな慶びを抱いて本日ここにご列席のことと思います。入学をお祝い申し上げますと共に、これからの大学院生活を引き続き温かく見守って下さいますよう、お願い申し上げます。

なお、新入生の中にはアジア、アフリカ、ヨーロッパの十四カ国からの留学生八一名が含まれております。皆さんは異なる言語、文化、習慣の中でこれから大学院生活を送ることになりますが、一日も早く日本の生活に慣れ、本学における学園生活が軌道にのることを祈っております。かつ、皆さんには皆さんの母国と日本との相互理解と友好関係の増進の架け橋になっていただくようお願い致します。

さて、入学された皆さんは本日より東京農工大学の一員として活動を始めます。その東京農工大学について是非知っておいていただきたいことをまず二つばかりお話しましょう。

まず東京農工大学は皆さんが思っている以上に大変に優れた大学であるということです。本学は百四十年にもならんとする長い歴史と伝統のある科学技術系大学ですが、農学と工学の分野の研究では日本のトップクラスに位置する大学である、ということです。このことは残念ながら世間一般に広く知られていることではありません。本学は国立大学ですから、基本的には運営資金は国から支給される運営費と皆さんからの授業料です。それ以外の収入は外部資金といわれます。この外部資金は、全国の大学・研究所に所属する研究者の間で厳しい獲得競争が行なわれ、その結果として選ばれた優れた研究に対して支給される研究費です。すなわち、これを獲得するには優れた研究者としての教員を豊富に持つことが必要ということです。本学の外部資金が大学全体の運営費に占める割合は全国で三番目の高さを誇っております。このことは本学教員の研究の質的高さがトップクラスにあることを示しております。本学の研究力の高さを示すデータはこれ以外にも幾つかありますので、ホームページで是非確認してみて下さい。この種の情報は、世間一般ではほとんど取り上げられないために、残念ながら広く知られているわけではありませんが、本学は全

国でも有数の優れた教員から成る大学なのです。皆さんはそのような優れた教員が豊富に在籍している本学大学院を選び、見事に合格し、その一員となってこれから研究生活を始めようとしております。本学の一員であることに大きな誇りをもって進んで下さい。本学は現状に満足せず、全学一丸となってさらに一層高いレベルの国際的教育研究拠点大学を目指して進んでおります。皆さんは安心して思う存分本学で学び研究に没頭して下さい。

次に本学の基本理念についてお話いたしましょう。本学の基本理念は英語表現にしたときの頭文字をとって MORE SENSE と略されます。その意味するところは以下のようです。二十世紀の社会と科学技術が顕在化させた深刻な課題に地球温暖化、環境汚染、人口急増による食料不足、エネルギー不足などがあります。これらは人類の生存そのものを脅かす地球規模の大問題です。これらグローバルな課題を如何に解決するかは二十一世紀の科学技術に課された重要課題ですが、これらの多くが農学や工学、あるいはその融合領域にかかわりのあるものです。これらの学問領域を柱とする本学はまさにこれらグローバルな問題を解決し、循環型社会、持続発展可能な社会の構築に向けて大きな役割を果たしうると考えられます。二十世紀の負の遺産を解消し、美しい地球の持続を実現するだけでなく、人類の福祉とさらなる発展に向けて大きな役割を果そう、という壮大な理想を意味するのが本学の基本理念 MORE SENSE なのです。皆さんには研究者を目指していく中で、この基本理念である MORE SENSE をときどき思い起こし、みずからの研究の方向性を見定めていただきたいと思います。

さて、本学における大学院生活を実り多いものにするために、皆さんに期待したいことがあります。入学された皆さんが指導的立場の研究者に成長するプロセスの中で、この大学院生活が占める重要さについて、ここで改めて考えていただきたいということです。大学は最高学府と言われ、知の宝庫です。皆さんが選んだ専門分野における高度研究者になるのに必須の知識体系と育成の枠組みが用意されており、先ほど紹介したような優れた教員が皆さんをサポートしてくれます。知識基盤社会といわれるこれからの高度化した社会において、世界の第一線で堂々と活躍できる研究者を育成する体制が用意されております。それを皆さんが十分に活用できるかどうかは皆さん自身の心構えにかかっているといってよいでしょう。皆さんは大学院の学生ですから、全ての点で自ら進んで考え、調べ、行動することが求められます。さらには学位論文に取組む中では新たな知を生み出すことが要求されます。教員から与えられることを待つのではなく、自ら求めて下さい。求めれば、それに応えられるのが本学の大学院です。自らの専門分野において新たな知を生み出す研究者を目指し，この分野では誰にも負けない，というスペシャリストを目指して下さい。自らのしっかりとした専門分野をまず確立して欲しいと思います。

一方、広く学ぶ、ということも重要です。狭い専門的知識や技術のみでは対処できない問題が多くなってきているからです。幅広い教養と総合的な判断力や優れた創造力が要求されるわけです。皆さんは課程修了後、多くは研究者として過ごすことになると思います

が、次第に研究グループ全体にかかわる決断などを迫られる重要な立場に立つことになるでしょう。学問や技術の大きな流れの中での位置づけが的確にできる能力を持つことは、自分の研究方針の決定だけでなく、グループ全体の方針決定などに必要なリーダーとしての重要な資質です。そのような資質を磨くには、自らの専門領域を越えて広く学ぶことが求められるでしょう。学問や技術の全体の流れを把握し、その中での自らの専門領域の位置付けができるようになってほしいと思います。しかし、全体を見通した総合的な判断力は簡単に短期間で獲得できるものではありませんが、それを育んでいくための基盤が大学にはあります。自らが所属する研究室は当然として、同じ専攻あるいは異なる専攻の研究室も皆さんには開かれております。他分野の研究者と大いに議論し、広い視野を身に付ける努力をしていただきたいと思います。このような貴重な場は社会に出てしまうとなかなかあるものではありません。この貴重な場を大いに活用し、自らの専門を深めると同時に科学技術全体の流れを把握できる幅の広さを持つ研究者としての資質も同時に磨いていっていただきたいと思います。

以上、これからの皆様の本学における学園生活が実り多いものになることを願い、本学で学ぶにあたって私が期待することについて述べました。今日の希望に満ちた気持ちを忘れず，何事にも自発性と行動力を持ってあたる積極的な学園生活を送って下さい。皆さんの主体性こそ肝要であり、受身であってはならないことを肝に銘じて欲しいと思います。皆さんが明日を担う研究者として大きく成長されんことを期待いたしまして、式辞と致します。

平成二十一年四月九日

東京農工大学長　　小　畑　秀　文